

麓山の杜 みどり通信

発行元 21世紀記念公園 麓山の杜管理事務所
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17
TEL 924-2194 FAX 924-2195

【26年度で「出生記念樹申請書」の受付を終了いたします】

出生記念品贈呈の拡充に伴い出生記念樹の贈呈は、平成25年度で終了しました。
平成26年3月31日までの出生記念樹の贈呈を行ってきましたが、26年度で終了いたします。
対象となる方で希望される場合は、申請期間内に申請されるようお知らせします。

- プレゼント対象者** 郡山市にお住まいの方で、平成26年3月31日までに出生した方。
- 申請方法** 申請書に添付して提出してください。(出生届の写しまたは母子手帳の写し)
- 申請期間** 出産後1年以内(平成27.4.1以降、申請書の受付はいたしませんのでご注意ください。)
- 申請窓口**
 - ・21世紀記念公園 麓山の杜 024-924-2194
 - ・郡山カルチャーパーク 024-947-1600
 - ・郡山市都市整備部公園緑地課 024-924-2361
 - ・各行政センター

ガーデニングのポイント

【水やり】 12月に入るとめっきり気温も下がり、植物の要求も少なくなり、あげる間隔は長くなります。しかし、乾燥時にはどっぴりとあげます。特に植え替えた場合は、土の乾燥具合を確認します。また鉢植えの場合は、すぐに乾燥してしまう為に灌水が必要です。根元を腐葉土などでマルチングをして乾燥や寒さを防ぎます。あげ方のポイントは、乾いてきたら樹冠全体にもたっぷりあげます。葉の表面の汚れや病害虫を洗い流す効果もあります。土壌条件が適さないと、いくら水をあげても根に届かず、すぐ乾いてしまい枯れる原因にもなります。水の量は、地中深く根に届くまでどっぴりとあげます。

【肥料】 樹木の場合、多くの種類では必要はありません。来春まで待ちます。

【病害虫防除】 病害虫は少なくなってきました。しかし居なくなったわけではなく、害虫の多くが幼虫や卵で越冬します。また、病原菌も発症した枝葉などに潜んでいるので、庭の落ち葉などは綺麗に片付けて元を絶ちます。美観の面でも綺麗な冬の庭を愛でたいものです。落ち葉がない場合は、腐葉土などでマルチングをします。冬に散布する事ができるマシン油乳剤や石灰硫黄合剤は、まだ早いです。常緑樹は、薬害が出やすいので注意が必要です。ツツジ類に付いたウメノキゴケを退治するために、この薬剤を散布する人がいます。しかし、この薬剤には

植物はこれから寒さに耐えて春を待ちます

そのような登録がありません。また、薬害も出やすくなっています。ウメノキゴケ自体には、害がありません。それよりもそれがつくことで、その植物の生育が悪くなっているといえます。また、綺麗な空気の所で発生しやすいといわれています。

今年は、松枯れの症状が多く見受けられます。枯れたマツを放置したままにしておくと、来年の害虫の発生源になりますから、綺麗に焼却処分などをします。また、枯れなくとも部分的に葉の色が変わっている場合もあり、それは病害虫によるものと考えられますが、それ以外の場合もあります。郡山市役所の近くにある名木も、一部が変色しています。植物は話をするわけではないので、その症状を早く見つけ対処する事は大変なことです。原因として、夏の異常な高温や大気汚染などの環境が関与していると考えられます。

薬剤を散布すれば対処できるというのは安易な考え方であり、それによって有益な昆虫や土壌微生物を殺して、かえって植物を弱らせてしまう事も考えられます。薬剤の使用はなるべく控えて育てる事が理想です。

【剪定】 常緑樹は、剪定後の萌芽が弱くなります。飛び出ている枝だけを切るくらいに留め、強い剪定は極力避けましょう。郡山では、冬の寒さを考慮してキンモクセイやサザンカなどの剪定は来春に行います。その地域の冬の温度を考えて剪定をします。ツツジ類

は、夏以降に剪定すると来年は殆ど花が咲きません。チャボヒバなどの針葉樹もこれからの刈込剪定は、その後の萌芽が悪い為に弱ってしまいます。マツ類は、今年伸びた枝は途中で切らないようにします。切ってしまうとそこからの芽が吹かず、その枝が枯れてしまう事があります。特にアカマツは、注意してください。来年の芽を大事に残して置くようにします。古葉や混みあっている葉はむしり取ります。枝も剪定をすることにより、すっきりとした樹形に仕上げられ雪害も防げます。落葉樹は、これからは強い剪定が可能になります。特にモミジ類は、落葉後が適期になります。遅くなると、切り口から樹液が流れ出て樹勢を弱めてしまうので、年内に

終わらせておきます。花木で来年の花芽が来ている場合は切り落とさないようにします。葉が無いので樹形が解り剪定がしやすいです。ただし太い枝を切った時には、その切り口に癒合剤などを塗って保護します。そうすることによって傷口が早く修復しそこからの腐朽が抑えられます。

【植え替え】常緑樹の移植は、向きません。落葉樹は、先月に続き適期です。カエデ類は、剪定と同じく年内に終わらせます。針葉樹の移植も寒さと共に大丈夫になりました。ただし、これからは乾燥時の灌水は忘れずに行います。また、根元を腐葉土などでマルチングをします。風も強くなりますので支柱を設置するようにします。



【みどりのイベント】		※みどり講習会は、10:00~12:00開催 樹木医の先生がお答え致します。	
開催日時	教室名	内容	定員
3月8日(日) 10:30~12:30	「樹木観察会 及び景色盆栽」	・園内の樹木を樹木医と観察する ・観察会終了後、景色盆栽(春の風景)をつくる	・15名 (事前予約) ・無料
3月15日(日) 10:00~15:00	記念樹交付及び みどり講習会	・記念樹の育て方初歩講座(季節の管理ポイント) ・記念樹を鉢植えで育てる方法 ・樹木の植え替え・1年間の主な管理	・記念樹申請者 ・受講希望者 無料

冬越し

先日、オリーブを冬囲いしました。野菜畑に使うベタ掛けシートで被い根元を腐葉土でマルチングをしました。来春まで葉を寒風から防ぎつつも光合成は行い丈夫に冬を越してくれると思います。寒さに大丈夫な樹木でも雪つりをしたり縄で結わいたりして雪害から守ってやります。先日、東京の公園でも添景物として雪つりがありました。



街で見かけた植物



シロワビスケツバキ (ツバキ科ツバキ属)
ツバキは、世界に数多く存在する世界的な花木です。本種は、茶花として使われるツバキの品種です。11月から咲き始め、翌年の4月初めまで咲き続けます。一重の筒状小輪咲きが、侘び寂びの世界に通じる名花です。ワビスケには、数多くの品種があり一番早く咲くのが本種です。挿し木や接ぎ木で殖やします。植え付けるのは春が適し、剪定も花が終わった4月に行います。時期が遅れると花芽が出来にくくなります。冬は、霜や雪によって花が傷みやすく、野鳥に蕾を食べられる事もあります。

